



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

徳山ダム管理所

徳山ダム上流に実のなる木を植えよう大作戦

徳山ダムでは建設期間中から、自然と共生したダム造りを目指し、動植物を保全する取り組みを行ってきました。「実のなる木を植えよう大作戦」は、ダム堤体工事が行われた平成13年から現在まで継続して行っている活動です。徳山ダム流域は、25,400haと広大で、流域の94%は森林であり、かつ天然林が9割を占める自然豊かな地域です。この山林を保全することは野生動物等生態系の保全につながることから、ダム盛り立てに使用するコア(土質)材料採取によって裸地状態で残された約18haの山地等に、一次緑化としてススキによる草地化後、野生動物の餌となるクリ、トチノキ、ブナ、オニグルミなどの「実のなる木」の苗木を植樹し、植生復元に取り組んでいます。

活動は、NPO法人揖斐自然環境レンジャー、揖斐川流域森林・林業活性化センター、生命の水と森の活動センター、揖斐川中部漁業協同組合の4団体が主体となり、岐阜県、揖斐川町、徳山ダム管理所も連携し、下流域から参加される人々と地元との交流や、山仕事の実体験をしてもらうことも目的に広く参加者を募って行っています。

さらに、地元小・中学生に広葉樹の見分け方、苗木の育成方法、森林と水、野生動物との関わりなど、自然環境保全の必要性を理解してもらうため、春に小苗を預け、約半年間校庭で育て、秋に児童



地元小学生による植樹(苗穴の作業)

生徒が自ら育てた苗木を植樹する「苗木のホームステイ・植樹活動」を平成21年度から行ってきました。

植樹実績は、参加者延べ約2,300名、植樹本数約5,000本を数えます。植樹地の環境は、薄い表土で覆われているものの、固く栄養のない土、寒暖風雪乾湿の差が激しい気象やシカ・イノシシの食害など、樹木の生育には極めて難しい場所です。このため、植え穴を大きく掘り、腐葉土と肥料を入れ苗木を植えた後、シカ避けネットによる食害保護対策のほか、年2回の下草刈りを実施してきました。

植樹した木には少しずつ実がなり始めていますが、今後も10年、20年の長い年月をかけて支えていく必要があります。徳山ダム管理所では、徳山ダム上流域がこれからも自然豊かな水源地域として保全されるよう、関係団体と連携して取り組んでいきます。

